

潮騒通信

Drug and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

どっこい生きてます!

潮騒ジョブトレーニングセンター

SSKU 一部100円



アオちゃん

ヤマピー

ジーバー

ゴロー

ゴツちゃん

タツヒコ

2021

11

巻頭言

MESSAGE
from YUTAKA

メッセージフロムゆたか

2度のNHK放送は
得がたい応援メッセージ

秋も深まりましたが、皆様お変わりありませんか？茨城県内の読者の中には視聴された方もいるかもしれませんが、先のNHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」に続き、今度は11月19日夜にNHK水戸放送局による県域放送枠で、私や潮騒 JTC についての特別番組が放送されました。「プロフェッショナル」放送分に一部修正を加えた内容で、私たちの活動をより掘り下げてくれました。そこで今回の巻頭言では、私がNHKの放送で考えたことを記します。

映像の持つ特性なのでしょうが、活字媒体と違ってテレビによる放送はストレートに人々の感情をとらえます。それだけに視聴者には、冷静さと余裕が求められます。これを踏まえた上で言いたいのですが、あの映像で映し出された内容は、私たちにとってはまぎれもない事実そのものです。でも、一部の人には「きれいごとすぎる」「実相は違うだろう」との批判や不満、違和感があるようです。もとより私も潮騒 JTC も、完璧な存在や団体ではありません。むしろ私などは長い間、世間からすれば唾棄（だき）すべき人間だと見られてきました。それが一転、人として生き直しの人生を歩んで18年ですから、まだまだ未熟そのものです。なので「偉そうなことを言うな!」という声が上がっても当然です。

これについて言い訳をするつもりはありませんが、依存の回復には「これだ!」という正解はありません。結局のところ、私たちの回復は神様(=ハイヤーパワー)の手にゆだねられており、そこが悩ましく、難しいところです。予定調和を超えた不思議さというか、人知を超えた霊的な力に帰せら

れるのです。しかも、依存は人間のグレーゾーンで起こる問題であり、世の中にみられる善悪の価値観や社会を律する倫理では解けない部分があります。正邪の二分法では計れないのです。でも、「天は自ら助くる者を助く」の教えのように、依存の回復も基本は仲間たちのなかで自助努力することによって可能となります。それでもなくても依存症は手強い病気ですから、苦勞しないで回復できるわけではありません。番組の映像にも出ましたが、スリップによる再犯を単純に悪だとして当事者を切り捨てるなら、依存の回復は成立しません。私たちは「それは(依存症という)病気がより根深いからだ」と理解し、当事者のやり直しを肯定する立場です。そのことを社会全体でもっと共有できたなら、依存の問題はより解決の方向に近づけるでしょう。でも、それは現状では私の夢にすぎません。

一度は潮騒 JTC に助けを求めたのに、「期待を裏切られた」と感じる当事者やその家族、さらには私たちの仲間の行動で迷惑を被ったという、近隣の方々がいることは十分に承知しています。それらの方々には、「どうかもう少し辛抱強く、寛大な心で私たちを見守ってください」と言い続けるしかありません。もちろん粘り強く理解を得る努力を続け、一人でも多く潮騒 JTC の支援者を増やしていく幅広い取り組みを通してです。二度にわたるNHKの放送は、潮騒 JTC にとって得がたい応援メッセージとなりました。同時に、ごく少数でも批判の声が寄せられたことは私たちの回復と成長の糧となります。有難うございました。

(法人理事長 栗原 豊)



潮騒 JTC 下津（おりつ）ナイトケア施設（鹿嶋市宮津台）に面した自称、「潮騒 JTC フラワーロード」（市道、下津通り）の歩道沿い花壇への花植えが11月17日午前に行われ、各ナイトケア施設の入寮者約120人が参加して心地よい汗をかきました。去年はコロナ禍で中止となっていただけに、仲間たちは密にならないように配慮しながら熱心に可憐なパンジーの花植えに励みました。冬場に向かって殺風景になりがちな市道両側の花壇が色鮮やかなパンジーの花で彩られ、近所の人たちや通行人、道行くドライバーらの心を和ませます。

フラワーロードの花植えは、栗原豊センター長が「自分たちの手で施設前の通りを美しい花で飾り、育てることで、地域活性化や潤いのある市民生活に貢献できたら」との趣旨で、地域貢献のボランティア活動として提唱され、約10年前から市の協力を得ながら、施設のプログラムの一環として取り組まれています。

歩道の花植え作業は、鹿嶋ショッピングセンター前から県道255号線との交差点手前の信号までの約1キロ区間で行われました。予め土を掘り起こし雑草を取り除いてある道路沿いの花壇に、仲間たちがスコップや手で丁寧に色鮮やかなパンジーを、休憩をはさんで約1時間半ほどで植え終わりました。過去に花植えを経験している仲間も多く、手慣れた作業となりました。

パンジーは開花時期がとて長く、適切な手入れを

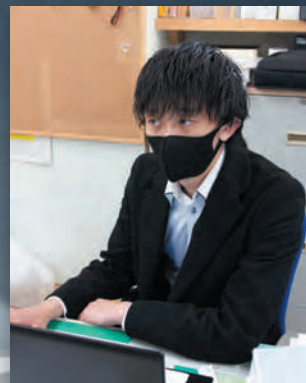
すれば次々と花が咲くので、冬から春のガーデニングには欠かせない人気の花です。今回植えたのは黄色と白色の二色で、合計2400ポットが用意されました。作業は役割分担して行われ、軽トラックの荷台に積み込んだパンジーポットのコンテナを一定の間隔をおいて下ろし、これを仲間たちが順番に植えていきました。車道側には黄色、歩道側には白色と植え分けて配置しました。仲間たちは「これから水やりをしっかりやって、きちんと根付くようにしたい」「地元の人たちやドライバーに少しでも喜んでもらえれば…」と話していました。

フラワーロードの花植えは毎年6月にも行われ、初夏を彩る黄色とオレンジのマリーゴールドや、赤色のサルビアが歩道の花壇に植えられています。特に夏場の海水浴シーズンには、このフラワーロードを通して下津海岸に向かう人たちが多く、観光客の目を楽しませています。花の定植には夏場の除草作業が一苦勞ですが、仲間たちは施設プログラムとして花との触れ合いを深め、やりがいを感じている様子です。



こんな俺でも「どっこい生きてます！」 仲間を見返す反骨精神が クリーンにつながる

アサヒ回復記 vol.02



潮騒に来たのは24歳の時なんだけど、自分がクスリとアルコールでひどく苦しんだのは20歳の頃だった。その当時のことは、うっすらとしか記憶にない。とにかく毎日のようにヨレていた。トラブルを起こしては、あちこちに迷惑を掛けていた。経緯は忘れたが、ある時にM市役所だったかに連れて行かれて、市の福祉事務所ですったもんだしたのは覚えている。

その後、担当のケースワーカーに連れられて、どこかの施設に向かったが、そこは貧困ビジネスの宿泊施設だった。一時しのぎの居場所という感じで、当然ながら治療や回復のプログラムなんてなかった。運悪く相部屋だったやつがクスリを使い、おかしくなって施設を飛び出した。施設長が異変に気づき、俺にも疑いの目が向けられた。でも当時、俺は曲がりなりにも調理関係の仕事をしていたし逮捕歴もなかったから、治療のために秋元病院に入院できた。

前回は少し触れたけど、どうも俺は病院とは相性が悪い。病院側からすれば手を焼く存在だった。そこで「君に向いた施設があるよ」と促されたのが潮騒JTCだった。ダルクに行く話は全然なかった。

あれからだから、クスリをやらなくなってから約8年になる。でも、アルコールでは何回も失敗（スリップ）している。日本っていう国は酒には寛容というか、とても甘く感じる。何かしでかしても「酒の上でのことだから…」と許される。アルコールだって立派（？）な薬物なのに、事件化されないと警察には捕まらない。子どもに「試しに飲んでみろ！」って勧める親だっているくらいだ。


自分も警察には捕まりたくない。それも俺がアルコールに親和性を持つ一因かな。それ自体合法だ

から、酒を飲んでるだけでは捕まらない。そんなふうだから潮騒につながって最初の1年は、なかなか酒がとまらなかった。ほかの仲間を巻き込んでスリップしたり、ひどい状態だった。今なら強制退寮だろうな。今振り返ると恥ずかしい限りだけど、なんとなく居心地がいいから潮騒を離れる気にはならなかった。別にほかの施設に行きたいとも思わなかったしね。

でも、最初の1年間は「どういう飲み方すればバレないかな？」と悪知恵ばかり働かせていた。そんなことを続けるうちに、ある仲間から自分がボロカスに言われた。生活態度が悪いぞってね。その仲間はスタッフ研修だったけど、俺にはどこか怪しいという感じで、グレーゾーンにいるように見えた。「クスリを使っているんじゃないか？」って勘ぐってね。その人が自分を責め立てるんだ。

気持ち的には逆上したけど、不思議なことにそこから飲酒が止まったんだ。信仰を持っている人なら、さしずめ「それこそ神様の啓示だ！」とか言うんだろうけど、自分には意固地なところがあって、「よし、じゃあ見てろよ！」って思ったんだ。俺の方がクリーンを続けて、そいつを見返してやろう、とね。反対に、もしそいつが（クスリを）やっているのが分かったら、「ぶっ殺してやろう」とも思った。

それが、アルコールを止めるきっかけになるんだから、人生はどう転ぶか分からない。後になって分かったんだけど、プログラムにある「恨みが感謝に変わるって、このことか…」って思うようになった。自分からすれば、止めるきっかけは何でもいい。自分でも本当にやめ続けている理由はよく分からないが、当時、その仲間と言われたことが発奮材料だったことは確かだ。



潮騒エイサー隊 仙台慰問活動

再開

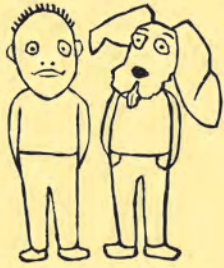
コロナ禍で中止を余儀なくされていた「鹿嶋琉球太鼓」潮騒エイサー隊の仙台慰問活動が10月末、1年半ぶりに二泊三日の日程で取り組まれました。2人の新メンバーを含め総勢10人(男女各5人ずつでチーム編成)が、コロナのうっぴんを晴らすかのように躍動し、3カ所の老人ホームで暮らすお年寄りたちに喜ばれました。別な用事で今回の仙台遠征に随行した栗原センター長も、「久しぶりに潮騒のエイサーに触れたが、利用者の皆さんがとても感動してくれた。来てみて本当に良かった」と手応えを得ていました。

潮騒では、以前からエイサー隊の仲間の親族が経営する、宮城県仙台市などの福祉施設(老人ホーム)に“エイサー慰問活動”をしてきました。2日間で3カ所を訪れるハードな遠征慰問ですが、回を重ねるごとに車いす生活のお年寄りたちが心待ちにしてくれています。今回もこれまでと同じハードスケジュールでしたが、エイサー仲間との泊りがけツアーとあって、いずれの公演でもチームワークの良さが目立ちました。

メンバーらは、各会場でソーシャルディスタンスに気を配りながら演舞し、合い間には軽妙なおしゃべりを取り入れて、お年寄りの皆さんを飽きさせないようにプログラムを組むなどして、工夫を凝らしました。いずれの会場でも「アンコール」の声が上がりました。予め地元エイサー演舞の告知チラシを配布した会場では、これを見て集まった地元の人たちのなかには初めて見るエイサー演舞に深く感動し、思わず涙する若い方もいました。

今回、同行して写真取材を担当した入寮者のケンパイさんは「私も潮騒エイサーは初体験だったので、とても感動しました。まだ潮騒に来て日は浅いですが、コロナ禍のなかで出演機会がなかった期間も、エイサー隊の皆さんが地道に練習に励んできた成果が随所に見られました」と明かしました。また、「ある施設では、今までほとんどしゃべらなかった超高齢の男性が“アンコール!”と叫び、近くにいた職員を驚かせていました」との目撃談も教えてくれました。

エイサー隊一行は公演修了後の帰途に、仙台慰問では恒例となった牛タン料理を堪能し、温泉入浴を楽しみました。今後は、コロナ禍による規制が緩和されたことを受けて開かれる12月4日の潮騒ミニフォーラム(入寮者交流会)で、約2年ぶりに本格的な再デビューをすることになります。



条件反射制御法で 世界を変えよう

第2回 条件反射制御法誕生の契機

下総精神医療センター 医師 平井 慎二

私は条件反射制御法を見つけるまで、ヒトは考えて行動するのだと漠然と捉えていました。右手で注射器を持って、左腕の血管に針を刺して覚醒剤を注入するヒトは、自分の考えでそうするのだと思っていたのです。だから、ダルクの方達が集まって、覚醒剤をやめられないのは病気だということを聞いて、刑務所に何回も入るほどやめられないから病気なのだろうけれども、自分の考えで覚醒剤を使っているのだから、欲求に耐えられないことの言い訳をしているのだと思っていました。今から考えると、突き詰め方が中途半端であり、誤った捉え方です。

私はそのような誤解をもったまま、覚醒剤などから離れられないヒト達に対応していました。

ある日、下総精神医療センターで入院患者を対象とした集団精神療法において次のようなことがありました。

患者Aさんが、『Aさんの顔を見ると、うんこがしたくなる』って言われて、この野郎失礼な奴だと思っただけ、こうゆうことなんですよ』のように話し始めました。Aさんは、入院の前に覚醒剤の売人をしてきた時期がありました。『Aさんの顔を見ると、うんこがしたくなる』と言ったヒトは過去にAさんから覚醒剤を買って使用することを反復していました。そのヒトが通りでAさんに会ったために覚醒剤を連想し、それが原因となって便意を催したのだと、Aさんは生じた現象の理論を解説したのです。

その話に私が驚きを示すと、集団精神療法に参加していた患者の一人が、「なんだ、先生知らなかったんですか。仲間が集まっているところに誰かが覚醒剤やろうってブツを持ってきたら、みんな、『俺、うんこしたくなった』って言い始めて、トイレの順番決めに なりますよ。なあ、そうだよなあ」のように言って、その場にいた他の者に賛同を求めました。少なくない

者が笑いながらうなずいたのです。

そのような現象は、覚醒剤乱用者の中では、わくわくうんちと呼ばれており、広く知られているらしいのです。しかし、当時は、その現象を知っている専門家はいなかったのではないのでしょうか。少なくとも教科書的な本には書かれていませんでした。その後、気になっていたので、忙しく働く日常の中でもそのことをときに思い出して考えることがありましたが、他の仕事に時間を割かれ、検討は進みませんでした。

そのようにして月日は流れていたのですが、弘文堂という出版社が、精神医学対話（2008年発行）という本を企画し、その中では臨床家と基礎の研究者が同一の疾病に関して論じ合うので、私に臨床の立場から、薬物をやめられない病態に関して書かないかという提案がありました。それを私は引き受け、まずは気になっていたわくわくうんちについて調査しました。

その調査では、久しぶりに覚醒剤を使うという状況になっただけで、腸蠕動運動が亢進して排便したくなる覚醒剤乱用者は5割を越え、他に発汗や動機などのいずれかの自律神経症状を呈した割合は7割を超えたのです。その結果から、私は、条件反射が覚醒剤乱用や飲酒を反復させるものだと考えました。

その調査結果を発表した論説のまとめには、「刺激を受けると自律神経系の変調が生じ、この変調が物質への欲求となり、再摂取が促進される」と、現在から考えると、全く誤った主張をしました。当時はまだ、反復する行動が生じるメカニズムに関する私の理解は不十分だったのです。しかし、Aさんによるわくわくうんちの話から調査を行って、条件反射が覚醒剤乱用に強く関与していると知ったことが、条件反射制御法の誕生の契機になったのです。

受刑者 からの手紙

「受刑者の手紙」は本来は公開されることを前提としていない私信ですが、当事者の本音が書かれており、依存症回復の第1歩である「自分に正直になること」を示す手本です。プライバシーに配慮し、掲載させていただいています。

なぜ「ダルクの潮騒」と称しないのか疑問が氷解した

シゲさんお手紙ありがとうございます。それによると、シゲさんかいらっしゃる新宮寮には5人の方がいらっしゃるとのことで、その方々を「家族」と称しておられました。とても感銘を受けました。私など薬に溺れて、「自分は依存症だと自覚したときに、本当に自分はどうしたらいいのだろう」と思い悩みました。友達などは心配してくれますが、私からは「本当に辛いから助けてくれ!」とは言えません。でも家族であれば、自分の弱さをさらけだし、助けを求め、頼ることもできます。そういう存在はすごく尊いものだと思います。そういう観点からも、つくづく潮騒ジヨブはとても暖かい感じがすると感じました。そして私までも家族と言って頂いて、とても嬉しかったです。寮の方々と回復を目指して共生するということは、単にプログラムをこなすということではなく、心と心で共生して、互いを尊重し、労(ねぎら)って、同じ目標に向かって一日一日を頑張るという、人間味のある生き方だと思います。これなら意志の弱い私でも、頑張れるような気がします。

ところで栗原センター長がNHK番組「プロフェッショナル」の取材を受けられたことに驚きました。これは本当にすごいことです。私は、おちゃらけの娯楽番組などより、教育ドキュメントみたいな同種番組がとても好きなので、「プロフェッショナル」に出ることがどれだけ凄いことなのかを熟知しています。本当に、ご出演おめでとうございます。加えて、今回お送り頂きました小冊子「人知れず苦しむ仲間たちへ」の中の「私の回復の歩み」も読ませて頂きましたが、私などには想像がつかないほどの努力と葛藤をされてこられた賜物だと思います。私はなぜダルクグループなのに、「ダルクの潮騒」と称しないのか、とても不思議でした。でも読ませて頂いてすべてのことが納得出来ました。栗原センター長の持つておられる信念と人間力によって培って来られた結果なのだとつくづく思います。回復途上の身である私などは、センター長の生き方に尊敬の念を抱きます。シゲさんともども、これからもお身体に留意されて、ますますのご活躍をお祈り致しております。(東京都 Tさん)

担当さんがNHK番組を見られ「とても感動した!」と

シゲさん、日々寒くなって参りましたが、体調を崩されてはおられません。6年間で4万通のやり取り、頭が下がります。今回も同封された潮騒通信や回復証言の小冊子、栗原センター長のテレビ出演の案内などを送付して頂き、ありがとうございます。残念ながらNHK「プロフェッ

ショナル」視聴は叶わなかったのですが、私が作業している工事担当さんが見られ、「とても感動した!」と言われていました。それを聞きまして喜ばしく、また一日も早くセンター長やシゲさんの元に行くことが叶いますよう、残刑を無事故で必ず生活致します。(秋田県 Sさん)

しおさい俳壇

11月のお題 収穫祭

選者 桐本石見

特選句

今の特選句

若き日の
収穫祭のハシゴかな

オノ

収穫祭と言えば西洋っぽい日本では秋祭、私の故郷島根では秋祭に神社へ神楽を奉納するので村毎に祭日をずらしていた。其の度に私は各地の神社に神楽を見に行った。祭には出店などもあり、若い人には出逢いの場でもある。隣町へ行くのも胸ときめく青春の思い出の句。

夕焼と
田圃のけむり収穫祭

しま

田圃(たんぼ)の景色にも山国と水郷があり、夫々に趣きがありますが、今ではコンバインなどで収穫も終わりの藁屑(わらくず)など燃やす煙が棚引くのも安らぎの景色。昔の藁塚など懐かしいが収穫祭を迎える夕焼の水郷も広々と静かで、豊かな稔(みのり)を彷彿する句。

日向路の
神々いずる野焼きかな

ラク

日向国は今の宮崎県で天孫降臨の国、出雲の国と共に神話の郷。野焼きは早春に害虫駆除と茅などの育成に行い、焼畑農業の一環でもあった。比木(ひき)神社(宮崎県)の師走祭など火の祭も名高いが、土手や草原を焼く火にも神々を思う日向路の旅に相応しい句。

俳句へのいざない

第二十二回 病窓

この度は少し私事の話題になり、恐縮ながら一文と致します――。

実は神栖市の健康診断で初期癌が見付き、内視鏡手術を受け十日ばかり入院致しました。その間の驚きは、先ず今日の医療技術の発達に感嘆し、麻酔から覚めて生きている事にも不思議を思いました。

手術後の四五日は伏す時が多く何かと物思いに更け、故郷の子供の頃、青春時代、鹿島開発、家族の事、戦後の貧困、台風地震など我が人生を顧みました。

天日も生きる権利も万人に平等なれど、生まれ持った才は必ずしも同じではなく、凡才の努力

忍耐の重ねで今の自分が在る訳で、つくづく八十年を良く生きたと思ひ、生の素晴らしさも痛感しました。

今後は余生と言うか、余命の限り時空を超えた句も詠み、人も自然も慈しみたいと思ひます。「潮騒通信」の諸兄の方々も今生きる幸せを切実に思ひ、月雪花に託して一句を詠まれては如何でしょう。

夜長病むもやひの如き治療管
秋の日や生死の間の鯉魚(りぎよ)の夢
退院に娑婆の風てふ空つ風

石見

秀逸句

今月の秀逸句

家までの
壺焼き諸の温かさ

もり

私の家の近くの病院には最近まで焼膳屋(やきいもや)が来ていたので珍しさに買ったつもりもした、風の寒い日などは新聞紙に包んだ諸が温かく嬉しかった。子供の頃風呂焚きの手伝いで諸を焼いたのも思い出す懐かしい句。

るみの家
みんな笑顔の収穫祭

ミニー

るみの家は女性専用の依存症回復施設で就労支援にも力を入れる。今年の収穫祭は何が採れたのだろうか。女性陣だけに採れた野菜などで美味しい祭の料理が出来たのだろうか。明るい句。

柿赤し
見ていて実家思い出す

イワ

「里古(さとふる)りて柿の木持たぬ家もなし」(松尾芭蕉)と詠まれているように、柿は縄文時代からあり鎌倉時代に甘柿が発見され全国に広まった。句の作者の古郷は何処だろうか、私にも石見の郷や旅の信濃が懐かしい句。

収穫祭
色とりどりの野菜かな

まこ

今では野菜も輸入などにより季節を問わず店に並ぶ物があるが、昔は旬の野菜が季節を告げたものである。それでも秋の薩摩芋、栗、豆類、蕪(かぶ)などの色は稲や柿なども含めて秋らしい彩で豊かさを思う。朝市など彷彿する句。

鬼怒川の
鮎の放流旅に見て

みく

鮎釣の解禁は河川により異なるが五月末から六月初旬に行われる、それより二カ月前水温が十度を超える頃に稚鮎を放流する。時には子供達もイベントに参加して楽しい旅の一句。

隣り湯の
声も高きや紅葉山

ゆたか

日本では湯治は四季に行うが紅葉を眺めての露天湯も格別、奥飛騨、草津、袋田の湯など夫々に趣きがある。その温泉から声が聞こえる、美人の湯など思う句。

佳作

頬染めて唄う童や落葉焚き	ラク	みな笑顔今年豊作収穫祭	みっちゃん
今日晴れて利根の広田や収穫祭	チャコ	感謝する大地の恵み収穫祭	えび
ジャガイモの煮付け大盛り収穫祭	ゆっきー	広々と利根の満作収穫祭	ピル
収穫の銀シャリ光る夕ご飯	ふく	金色に穂田の輝く潮来かな	めい
お結びも食べて楽しき収穫祭	のん	四五日は何か忙し収穫祭	いるか
収穫祭実り実って皆笑顔	ひーちゃん	汗だくに皆で集むや薩摩芋	あきら
栗ご飯炊いて祝の収穫祭	あっちやん	収穫祭甘いスイーツ食べまくり	ちあき
野菜もね皿に大盛り収穫祭	ニモ	収穫祭子供時代の懐かしき	まりん
晴天や皆で楽しむ収穫祭	モモタス	順境にでんぐり返し秋の天	ゆたか
もう一息力合わすや収穫祭	れいこ		

11月 Clean Birthday シラフを祝おう!

クリーンバースデー

アディクト（依存症者）のクリーンタイム（断酒、断薬、断賭博の期間）を祝う対象者を紹介します。数字はクリーンの年数です。



アベ

これからも頑張ります!!

14年



イノ

これからも頑張ります!!

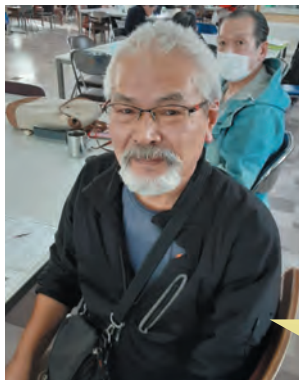
1年



ヒロ

これからもクリーンで!!

10年



ヤス

これからも真面目に!!

2年



ジョー

回復一番

2年



潮騒 VS 百寿

スポーツ交流開催!

コロナ禍の影響で中止していたNPO法人・潮騒JTCと、関連施設の高齢者の通所介護事業所「デイサービス百寿」によるスポーツ交流が、久しぶりに再開されました。

潮騒グループ内の施設入寮者、職員スタッフらの健康増進と親睦を図る目的で取り組まれているスポーツ交流（主にソフトボール）ですが、新型コロナウイルスの感染拡大により中断を強いられていました。しかし、ここにきて新規感染者が激減して落ち着きを取り戻していることから復活されました。

今回はソフトボールに加え、サッカーボールを使ったキックベースも行われ、老いも若きも勝ち負けにこだわらず、それぞれ持ち味を生かしたプレーで入寮者仲間から声援が送られました。今回も、若さと技術のうまさを兼ね備えた職員主体の百寿チームの活躍が光りました。



12月の行事予定

12月1日 水戸保護観察所 スマーブ

12月4日 潮騒ミニフォーラム
(施設関係者限定、
入寮者交流会)

12月16日 潮騒俳句会

感染予防対策を徹底して行います。
状況に応じて中止や延期になる場合があります。献金・献品を頂いた方
(11月15日現在)

- ・市毛 みずき 様
- ・高橋 則子 様
- ・桐本 博昭 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。
※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

ごまめの歯ざしり

「もはや できあいの思想には倚(よ)りかかりたくない/もはや できあいの宗教には倚りかかりたくない/もはや できあいの学問には倚りかかりたくない/もはや いかなる権威にも倚りかかりたくない/ながく生きて/心底学んだのはそれぐらい/じぶんの耳目/じぶんの二本足のみで立っていて/なに不都合のことやある/倚りかかるとすれば/それは/椅子の背もたれだけ」▼僕の好きな詩人・茨木のり子が晩年73歳の時に書いた、ベストセラーになった「倚りかからず」という作品だ。彼女は5年後に誰にも看取られることなく孤独な状態で亡くなるのだけれど、「自立と依存」の問題について考えると、なぜか僕はこの詩を思い出す。孤高の気高さはいいとして、依存の世界では回復には仲間が必要だから、こう言い切られると身も蓋もなくなる。依存に苦しむ仲間たちには、孤立と孤独は大敵だ。その意味で、もたれ合う“ほどほどの自立”があつていいと僕は考える▼というか、人間の社会は互いに迷惑を掛け合いながら、“程よいもたれあい”で成り立っている。この詩も注意深く読めば、自己責任とは異なる次元で、自立の大切さを訴えているように受け取れる。他人の受け売りではなく、まずは自分の頭で考え行動し、結果はきちんと自分で受け止めよ!というメッセージに僕には聞こえるのだ。安易に自分を棚に上げずに、当事者としての尊厳を持って物事や関係に立ち向かうスタンスを求めているのではないだろうか▼振り返ると、この女性詩人の作品に最初に触れたのは大学時代だった。「苛立つのを/近親のせいにするな/なにもかも下手だったのはわたくし/初心消えかかるのを/暮らしのせいにはするな/そもそもが ひよわな志にすぎなかった/駄目なことの一切を/時代のせいにはするな/わずかに光る尊厳の放棄/自分の感受性ぐらい/自分で守れ/ばかもよ(「自分の感受性ぐらい」)」。出口のない問題に悩み苦しんでいた僕の心に、ストレートに響いた▼この詩は「自分の努力が足りなかったと反省することをせず、他人のせいにしていないか?」という問い掛けと、自分への戒めとなった。あれから45年、僕の感受性はすっかり色あせてしまったけれど、今でも勇気づけられる。アルコールや薬物、ギャンブルの回復を目指す潮騒JTCの仲間も、なかなか希望の見えない苦しい施設での生活が続くとしても、謙虚な姿勢で日々プログラムに取り組めば、わずかに残る人としての「尊厳」が自らを救う光を届けてくれるだろう。(勝)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2021年11月号

Contents

P ② 巻頭言: MESSAGE from YUTAKA

2度のNHK放送は得がたい応援メッセージ

P ③ 潮騒JTCフラワーロード★パンジーを植えています★

P ④ こんな俺でも「どっこい生きてます!」アサヒ回復記 vol.02 P ⑤ 潮騒エイサー隊 仙台慰問活動再開

P ⑥ 条件反射制御法で世界を変えよう 第2回「条件反射制御法誕生の契機」

P ⑦ 受刑者からの手紙 P ⑧ しおさい俳壇 11月のお題「収穫祭」 P ⑩ 11月のクリーンバーステイ

P ⑪ 行事予定 / 献金・献品 / ごまめの歯ざしり



■ 編集・発行: 特定非営利活動法人 潮騒 ジョブトレーニングセンター
理事長: 栗原 豊

本 部: 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210 番地 10

事務局: 〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4 丁目 4-5

潮騒アディクションビルレッジ会館 4 階

TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

E-メール siosai2010@yahoo.co.jp

ホームページ http://shiosaidarc.com/

